

〔紹介〕

高崎淳子著 『中国旅行詠の世界』

尾崎千佳

高崎淳子氏著『中国旅行詠の世界』は、本誌第二六号・第二九号・第三〇号・第三二号・第三三号に掲載された「中国旅行詠の世界」に、新稿一章を加えて一書としたものである。「金州・北京」「敦煌」「長江（巴蜀三峡）」「江州・杭州」「西安・洛陽」「江蘇・上海」の全六章で構成される。

「歌」とは「ときに交流しときに乖離」するものであるらしい。すでに多くの歌集を発表してきた著者ではあるが、過去を「逍遙」した先に、新たな歌の世界が見はるかされていることだろう。
『中国旅行詠の世界』 角川書店 二〇一〇年三月刊 一八五頁
二三八一―二四

「あながき」冒頭で著者自ら「これは紀行文ではありません。中国旅行を描き詠った先達の世界を逍遙した論集です」と断るとおり、正岡子規・佐佐木信綱・齋藤茂吉・土屋文明・土岐善麿・近藤芳美・宮村二・岡野弘彦・安永露子・馬場あき子・岡井隆・俵万智ら、近代歌人による中国旅行詠が、その成立の背景への論及とともに点綴されている。時に芥川や谷崎らの散文も参照され、時に遠く李白・杜甫・白居易や山上憶良にも思いを馳せ、また時に著者自身の体験と感懐が交錯する行文は、まさに「逍遙」と呼ぶにふさわしい。

著者は、「長恨歌」を生んだ長安を訪ねるべくして一九九三年三月に初めて中国上海に足を踏み入れたというが、本書には著者自身の短歌は引用されていない。先達による中国旅行詠の世界の「逍遙」は、「自ら旅し、詠う中国を、生きる時代の中で表現するための思考として」なされたものでありつつ、著者自身の「中国への旅と短